



波乗りのススメ

会員 高山 聡一郎 (67期)

皆様はサーフィンにご興味ありませんか？

最近では、2021年の東京オリンピックでオリンピック種目となり、いきなり日本代表の五十嵐カノアさんが銀メダル、都筑有夢路さんが銅メダルを獲得しました。

私は大学生時代にサーフィンを始め、現在も続けています。下手の横好きではありますが、今回はこの紙面をお借りしてサーフィンについて語りしたいと思います。

1 サーフィンを始めるには何を準備すればいい…？

気合いと根性で足りません。サーフボード、ウェットスーツはレンタルがあるので、いきなり準備する必要はありません。弁護士仲間を海にお誘いして行くこともしばしばありますが、気合いと根性とバスタオルだけ持参してもらっています。

2 サーフィンは夏のスポーツ…？

気合いと根性があれば冬でも楽しむことができます。ちょっと専門的な話をすると、夏は太平洋高気圧の張り出しによるウネリが外房に届き波を生みますが、台風のウネリが入ってきたときは波は崩れ、海は荒れ放題です（昨年の東京オリンピックがまさにそうでした！）。一方冬は、太平洋から強いウネリが入ってきても、西高東低の気圧配置から生じる西風が抑え込み（オフショアというやつです）、形を整えます。ようはキレイな波が立つということです。さらに夏は人が多いですが、冬は気合いと根性がある人しか海に入らないので空いています。なので、夏のスポーツだと思われるサーフィンですが、実は冬にやると最高なのです！

3 サーフィンは難しい…？

私がこれまでチャレンジしたスポーツの中で最も難しいです。

そもそも板切れ1枚で水面を走るという点に無理があります。世界で初めてサーフィンをした人は何を思ってチャレンジしたのでしょうか（笑）。安定の悪い水面に

立つ、そして走る（時には飛ぶ）、その水面は波なので動いている…とくれば、それは難しいに決まっています。よく「立てますか？」と聞かれますが、立つこと自体大変です。しかし、その分立てた時の感動が凄いです。私は幸運にも初めてのサーフィンで立てたのですが、それでハマってしまい、帰りにはサーフボードを購入していました。難しいことは楽しいことであり、チャレンジしない理由にはならないですね！

また難しい（うまくならない）理由として環境が厳しいという点があります。自然を相手にするスポーツなので、波がない日や波が大きすぎる日があります。やりたくてもできないということがあるわけです。また、サーフィン場やサーフィン練習場があるわけではありません（人工サーフィン場は除く）。いい波が立てば、プロもセミプロも初心者も老いも若きも、みんな同じ海に入り、波を取り合うわけです。いい波にたくさん乗らないとうまくはならないのですが、それも競争があって大変なのです。

4 まとめ

ということで、難しくもやりがいがある今旬なスポーツがサーフィンなのです。

弁護士でサーフィンをしている人にはあまりお目にかかりませんが、自然に触れ、波に揉まれ、全体力を使い果たせば、嫌なこともつらいことも吹き飛びます。気合いと根性を胸に、海にくり出しましょう！

